

○地域福祉フォーラムについて

1.地域福祉フォーラムとは？



(千葉県社会福祉協議会 HP より抜粋)

私たちの住む地域では子どもから大人まで多くの住民が、それぞれ幸せを願いながら暮らしていますが、中には様々な事情から悩んだり、辛く悲しい想いを抱えながら生活している方もいます。

そのような住民のために、従来は行政や社会福祉協議会などの福祉関係団体や、自治会・町内会などの住民互助組織が小・中学校区の単位（小域福祉圏と呼びます）や市町村の単位（基本福祉圏と呼びます）などで地域の福祉に取り組んできました。

ところが近年、独居老人による孤独死、介護負担による高齢者虐待、子育ての負担による児童虐待、多重債務やいじめによる自殺など、人間の尊厳や権利擁護に関する問題から、障がい者の地域生活への移行、移動困難者の移動手段の確保、ホームレスの自立などの声が沸き起こるなど、その他にも地域福祉に

関する問題は多様かつ表面化してきています。そのようななか、従来地域福祉を支えてきた福祉関係団体などだけでは解決できない問題が多くなってきているのが実情です。

そもそも「地域福祉」とは「地域住民の幸せづくり」とも捉えられます。

これには福祉関係者だけでなく、私たちの暮らしを支える活動を行っている方々全てが関係しているといえます。

つまり地域では、地域づくりを行っている NPO などの団体、さらにはまちづくり活動を行ってきた商店街や企業、教育関係者、郵便局、警察、防災・防犯関係者などの幅広い分野の方々が暮らしを支える活動を担っており、地域住民の幸せづくりのために汗を流しているのではないのでしょうか。

このことから、現在の多様な地域福祉に関する問題に取り組むためには、地域住民の幸せづくりを支える幅広い分野の方々や、従来地域福祉を支えてきた福祉関係団体と、さらに障がい当事者や子どもから大人までの多くの地域住民が、「地域福祉」という目的のもとに集い、知恵を出し合い、問題解決をめざして力を結集させるしくみづくりが求められています。

そのため千葉県では、県民自ら小域福祉圏（小・中学校区）や基本福祉圏（市町村行政のサービスが完結）などのエリアごとに地域福祉を推進するしくみであり組織である「地域福祉フォーラム」の設置促進を図ることにいたしました。

この地域福祉フォーラムでは、できる限り多くの地域の方々の参加や、その意見を盛り込むことが重要になるので、少しずつでも幅広く参加者を集いながら創り上げていくことがポイントになります。

また、小域地域福祉フォーラムよりも市町村レベルでの取組みが必要な問題については、基本地域福祉フォーラムがそれらの意見を吸い上げて取組む必要があります。

なお、事務局については、従来地域福祉を推進してきた社会福祉協議会や、地域で活発に福祉に取り組む NPO などの団体に担っていただきたいと考えます。

そこで、これらの趣旨に賛同して小域や基本圏域に地域福祉フォーラムの立ち上げを希望する団体（事務局を担う団体）に対し、千葉県では千葉県地域福祉フォーラム事務局（社会福祉法人 千葉県社会福祉協議会）を通じて、千葉県地域ぐるみ福祉振興基金より立ち上げ経費を助成することにいたしました。

（千葉県社会福祉協議会 HP より抜粋）

## 2. 茂原市における取り組み

地域社会福祉協議会が設置されている13地区すべてにおいて、地域福祉フォーラムを設置。

### (例1) 五郷地区 H21～H23

- 自治会、地区社会福祉協議会、民生児童委員、ボランティア会等24団体の参加を見込み、地域住民の意見の集約及び行政機関との連絡調整の場として、「五郷地区まちづくり協議会」を立ち上げ、地域福祉フォーラム（仮称：まちづくり委員総会）を開催
- 地域住民のニーズに合った活動を展開するため、専門部会（教育福祉、防犯防災、環境衛生、地域交流等）を設置
- 地域住民と行政機関との意見交換会（五郷を語る会）などの開催

### (例2) 豊田地区 H21～H23

- H9の豊田地区社会福祉協議会の設置以来、豊田地区自治会長連合会、豊田地区まちづくり推進連絡協議会、豊田小学校区青少年育成会等の協力の下に、地域福祉活動を展開してきた
- 豊田地区社会福祉協議会役員（20団体の代表）を中心に、「豊田地域福祉フォーラム」を立ち上げ
- 「いきいき豊田福祉づくり」の実現のために、専門部会（総務部会、長寿部会、地域住民ニーズ調査部会、防犯・防災部会、福祉部会、地域交流部会、環境美化推進部会）を設置
- 単位長寿会（13自治会のうち9自治会で未組織）、豊田地区連合長寿会の設置を推進
- 豊田地区まちづくり推進連絡協議会、青少年育成会と協働で地域間・世代間交流を積極的に推進

### (例3) 中央地区 H22～H24

- 住民主体の自主防災組織を立ち上げることを目的として、自治会を中心に参加を募り、組織化に向けて地域での意識調査などを実施
- 委員会を組織し、調査結果を元に、市や消防署等の協力を得ながら、地域住民を対象に、自主防災についての意識向上と防災技術の習得を図るための講習会を開催
- 小学校と連携し、防災についての研修会や訓練を実施

(例4) 北部地区 H22～H24

- 自治会、民生児童委員、小中学校、PTA、地区代表、保護司、更生保護女性会、長寿会、ボランティア、保健委員、学識経験者等から選出された委員により、総合市民センターを活動拠点として、いきいきサロン事業を中心に、敬老事業、世代間交流会事業などを展開
- サロン部会を開催し、サロン終了後、参加者の有志による話し合いを持つことにより、地域のさまざまな課題や住民ニーズを汲み上げる
- 地域福祉フォーラム（座談会）への参加者の枠を広げ、福祉関係以外の各分野（商工、防災・防犯、子ども会育成会、医療関係等）の参加を求め、座談会を開催し、地域における課題やニーズの一層の明確化を図る
- 保育園児、小中学校の児童生徒の父兄に対して参加協力を呼びかけ、「三世世代間交流会」を展開
- 主任児童委員、保健センター（保健師）と連携し、子育てサロンの開設及びネットワークの構築を推進
- 住民参加型在宅福祉サービスの実施を検討

(例5) 鶴枝地区 H23～H25

- 自治会、地区社会福祉協議会、民生児童委員、青少年育成会、ボランティア会等、多種多様な団体の参加を見込み、地区住民が連帯と協調性を持ち、明るく住んで良かった「地区内の差がない住みよい調和のあるまちづくり」を実現するため、各種団体の役員を中心に「鶴枝地区福祉フォーラム」を立ち上げ
- 地区住民の絆を深めるための各種事業の運営方法の懇話会を開催
- 地区内の住民ニーズに合った活動を展開するため、専門部会（防犯防災、教育福祉文化、地区交流、環境衛生等）のメンバーを選出
- 一人ひとりが主役となる自助・共助ネットワークを推進

(例6) 豊岡地区 H23～H25

- 地区社会福祉協議会を中心として、「豊岡地区地域きずなフォーラム」を立ち上げ、PTA、自治会、子ども会、長寿クラブ、婦人会、民生児童委員、青少年相談員、育成会、郵便局、派出所及び農協等、豊岡小学校を取り巻く各種団体とのネットワークを構築
- 小学校におけるバザーやマラソン大会などの行事に合わせて、子どもと大人のふれあい広場を開催
- 地域の問題解決の突破口とするため、学校や福祉センターに「メヤス箱」を設置
- 年1回以上の広報紙「きずな」を発行